

もう一度、ハザードマップについて

災害に備えて、災害があった時にどのような状況が想定されるのかを地図に表現（実際には、ハザードマップ+リスクマップになっている）



（例）

地震による震度分布



（例）

建物の全壊率

1. 使い方(災害対応のための)

- ☆ 地域の災害特性を知る
- ☆ 災害時の避難を考える
- ☆ 安全なところを確認する
- ☆ 避難所選定の基礎資料

2. ハザードマップありますか

☆ 見つけたら、見えるところに貼っておきましょう

☆ なければ、役所から手に入れておきましょう（ダウンロードも可）

☆ とまどき、眺めておきましょう

3.活用する上での留意点

- ☆ 災害の発生し安や災害を予測したものは、前提となる仮定やこれまでの経験知で作成されていることを承知することが大切
- ☆ 地図の精度や解像度を含めてみる必要がある
- ☆ 市町村単位になっているので、隣接域にも要注意
- ☆ ハザードマップ ≠ 万全な備え
(見ているだけでは、薬効なし)

大事なことは、提供されているハザードマップを参考にして、住民自らの地域マップ(マイマップ)を作成して、災害への関心を高めてほしい 